

解説 成田忍

Profile ●京都出身。1982年より99.99 (フォーナイン) や4-D mode1に参加後、84年に自身のユニットURBAN DANCEを結成、高橋幸宏プロデュースによりデビュー。ギタリストとしても布袋寅泰、土屋昌巳などの数々のライブやレコーディングに参加。現在は横川理彦とのユニットBLANC (プラン) が活動中。京都精華大学非常勤講師。

# TECHNOBELIC

## 06 体操

作詞：坂本龍一 / 作曲：坂本龍一、YMO

アナログLPだとB面の1曲目。だから派手な曲が来るのだと久しぶりに思い出した(ちなみに、アナログレコードはたいいてい、盤面の外側の方が内側より音が良いのである)。このアルバムは、細野晴臣が作曲したイモ欽トリオの「ハイスクールララバイ」と同じ年に出たので、当時のYMO流のお遊びかと思ったが、とは見えその中に何か狂気を感じる。ラジオ体操で、痙攣の運動をして、あなたは変態になると歌っているのだ。サウンドに関しては厳選されたフレーズ・サンプリングで構築されている。やっぱりこちらは「テクノデリック」だ。やっぱりここも拡声器使ってる!(笑)

## 07 灰色の段階

作詞：細野晴臣、ピーター・バラカン / 作曲：細野晴臣

毛色が違う感じがする。この曲だけ細野晴臣の曲で、しかも自身で歌っているから? ほかの曲よりTR-808がベーシックでビコボコ言ってるから? いや、そうではない。シンセは相変わらず発振気味だし、変なサンプリングも入っているのに、何かほかの曲とは異なる空気を放っているのだ。歌詞を追ってみてふと浮かんだイメージは「希望の光」。語彙不足で上等に表現できなくて申し訳ないが、ほかの曲にはない、ゆっくり前に向かって進むポジティブな意思みたいなものか。別の方向から見ると、これはYMOというグループではなく細野晴臣だけの世界だと思う。それはそれとして、なんか染みるなあ。

## 08 手掛かり

作詞：細野晴臣、ピーター・バラカン / 作曲：細野晴臣、高橋幸宏

アルバム中もっともひねりが少なく、ニューロマ寄り? の1曲。シャープな16ビートのスクエアなシーケンス、ドラムとベース。綺麗なメロディと漠然とした鬱や恐れ。普通ならとても尖った難しい曲と言われてもおかしくないが、「テクノデリック」においてはとてもまともだ(笑)。事実、この曲は人気もすぐあった。ミーハーだった(死語)当時の私は、この「手掛かり」と「BGM」の「キュー」が好きだったことをあらためて思い出す。私も若かったが、37年前のYMOもやはり若かったのだ。

## 09 前奏

作曲：坂本龍一

## 10 後奏

作曲：坂本龍一

エンジニアの飯尾芳史氏が溝岸で録音したと言われている工場の音のループが、ゆったりしたテンポのビートとなつてずっと背景の映像のように流れている。フィールド・レコーディングはウォークマン以降、カセット・テープではあるが手軽に行うことができるようになっていた。私も当時、捨てられたドラム缶を叩いたり、古いドアの軋み、川の音、デパートのアナウンスなど何でも録音しまくっては、無意味に曲に重ねたりしていた(笑)。

「前奏」は、ロザめそうなペンタトニックのメロディなのに、摩訶不思議な魔法にかかったような抽象的な音世界で創られている。5つのシンセ(半分以上が単音)しかないけど、聴く人を引きずり込むのに十分な説得力を感じる。この頃こういうの好きで研究したなあ。

工場音がモーフィングして別の工場音に引き継がれる。「後奏」は打って変わって映画のエンド・ロールのような、教授の、憂いに満ちた美しく悲しいメロディとふ厚い雲のようなストリングス・シンセの音で荒唐無稽なアルバム「テクノデリック」は幕を閉じる。でも終わる前にもう「ジャム」に戻って聴いてみたくなる。完全に中毒である。



特集 ●選ぼう! 君のキーボード  
サウンド・ズーム・アップ ●イェロー・マジック・オーケストラ 32周年 KEVY (1984-86)  
新シリーズ・日本のポップス研究 ●アコースティック・キーボード・スペシャル ●ラリー・ダン (EW & F) 40周年 / ジョージ・デューク モーター・タイム・ギター ●エターナル  
特別企画 ●楽器別ワンポイント・フレーズ集 (イッキンク編)  
新連載 ●井上 望コラム ●益田幹夫セミナー



1982年1月号の表紙には、3人で登場。細野晴臣のインタビューほか、「テクノデリック」のサウンド分析記事を掲載した。



- SIDE 1
- 1 PURE JAM
- 2 NEUE TANK
- 3 STAKAS
- 4 SEBUL MUSIC
- 5 LIGHT IN DARKNESS
- SIDE 2
- 1 TAISO
- 2 GRADATED CAES
- 3 KEZ
- 4 PROLOGUE
- 5 EPILOGUE

